雜載

ゑ　清水坂　かうじ町尾陽公ト井伊家の間を坂をいへり、不忍池　上野の下也、辨才天の島あり、白銀原　さぎの森の先よりなべてかく云　忍の岡　東叡山を云　品川の冲　毎年三月三日鹽干の眺望、住吉の冲にひとし、

る　江戸見坂　虎の御門外松平大和守殿ト、牧野駿河守殿間の坂也、右衞門櫻　四谷の末ニ在、此木誠に名木にて、春興宴樂不斜、此所をかしわ木村と云、　永代島　本所の隣也、八幡宮在、

ひ　ひじり坂　芝三田功靈寺の前也

せ　關口の川　目白不動の下に在、水道の枝川、

す　角田川　角田川はむさしと下總中間也　駿河臺小川町の上の臺也

〔江戸鹿子五〕江戸八景

隅田夜雨　忍岡秋月　增上晚鐘　鐵洲歸帆　淺草晴嵐　愛宕夕照　富士暮雪　目黑落雁

〔慶長見聞集六〕江戸町境論の事

江戸町わりは、十二年已前の事なり、其頃賣買に、金一兩二兩の屋敷は、今百兩二百兩五百兩のあたへする、町さか行まゝ、皆人やしきを高くつきあげ、家をあたらしく作りなほす、昔の境ぐゐを尋るに、ほそきくひを立置つれば、みなくさりて一々其印一つもなし、然間寸地分地の境をあらそひ、人毎に云事して、近き隣も心遠くへだゝりぬ、